

余震分布と速度構造モデル

Double-Difference トモグラフィ法 (Zhang & Thurber, 2003) の適用

・グリッド配置

Xgrid (ES35° +): 4km間隔

Ygrid (NW55° +): 4km間隔

Zgrid (D +): 3km間隔

・初期震源: 酒井・他による震源

・初期速度構造: Takeda et al (2004)を参考

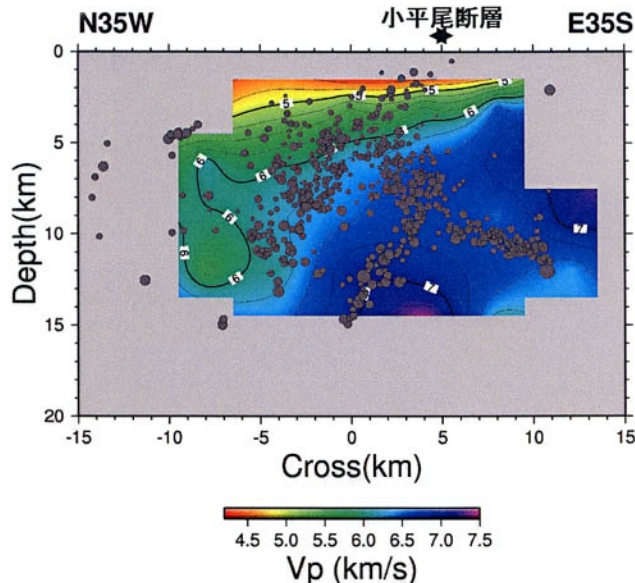
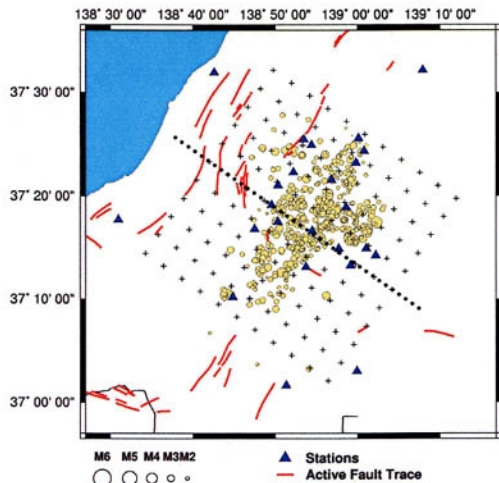
・観測点総数: 57点

(14点: 臨時観測点, 43点: 定常点)

・使用した地震の総数: 625

・Rays (absolute) P: 20238, S: 19700

・DDs (Double Difference) P: 85500, S: 86000



上図. 推定されたP波速度構造と震源分布を示す。

左図. 使用したグリッド配置、観測点分布、求めた震源の震央分布を示す。点線は上図の断面図の位置を示す。